



タレント

つまみ枝豆

special interview



代表

松谷 泰子

松谷泰子税理士事務所

愛知県名古屋市北区大杉三丁目8番1号

税務職員30年以上の経験を活かして 税務に関する課題を的確にサポートする

2021年開業の『松谷泰子税理士事務所』。松谷代表は、税務職員として30年以上勤務し、税務署勤務のほか国税局の審理課、資料調査課、及び個人課税課に勤務した経験を持つ。開業後は、代表が直接訪問の上、お客様の声に耳を傾け、相談しやすい関係を構築。良好な関係を保ちながら、全力で的確にサポートを行う。本日は、タレントのつまみ枝豆氏が、そんな代表のもとを訪問し、お話を伺った。

まずは、松谷代表の歩みから伺います。税理士を志されたのには、どういったきっかけがおありだったのですか。

高校生の時、訪問販売をされている父の友人が週に数回のペースで父のもとに

はとても魅力的だとおっしゃり、「採用試験を受けてみたら?」と勧められたんです。父の大切なご友人ですから、とにかく受けてみようと税務職員採用試験を受けたところ受かったんです。

——何がきっかけで進路が決まるか分かりませんね。それにしても、合格されるとは、素晴らしい。周りの反応はいかがでしたか。

高校3年生の11月には就職先が決まってしまいました。大学に進学するつもりでしたらが進路指導の先生から、大学を卒業したとしても、簡単に公務員になれ

いらっしゃっていたんです。よく喋られる方で、私はよく玄関先でその方のお話を耳を傾けました。そんなある日、部活から帰宅し、いつものように玄関先でその方の話を聞いていたら、税務署の仕事



の審理課や資料調査課、個人課税課に勤務し、貴重な経験を積ませていただきました。国税庁や財務省で働くかなかという打診もあったのですが、結婚して子どもにも恵まれるなどライフステージが変化していく中、お引き受けすることはありませんでした。

——30年以上も税務職員として働かれ中で、どういったお仕事に携わっておられたのでしょうか。

5割が税務調査、5割は審理といって、例えば課税処分が妥当であるかどうかを審議したり、調査指導をしたりといったことが主な役割でしたね。大変な仕事ではありましたが、見識が広がっていくのが楽しくて。それに、調査で様々な業種の方と関わり、いろんなお話を聞く機会に恵まれました。お金は万人にとって大切ですから、いずれのお話も興味深く、勉強になりました。やり甲斐は常に感じていましたね。

——豊富な経験を蓄積され、独立・開業を考えるようになられたのでしょうか。

いえ、実は定年まで公務員として役目を果たしていくことを考えていました。でも、5年ほど前に乳がんに罹患して、その考えも心境も変わったんです。公務員人生と民間人人生の両方を経験できて、良かったとは思います。組織に属するのではなく、1人の税理士として、自分にできることで誰かのお役に立てたらと独立を決意しました。

——ご闘病されていたのですね。こうして元気なお姿を見ることができて、良かったですよ。税理士免許も取得されたのですね。

税務署に23年以上勤務すると、税理

士免許の試験を取りやすくなります。2科目は研修中に取れて、3科目は免除されるんです。お陰様で税理士免許を取得できました。税理士は今、その数が減少傾向にあるんですよ。

——そうなのですか。社会に必要な職業なのに、意外です。

そうですね。会計業界の将来的な人材不足が危惧されています。みなさん、経理コンサルなどには資金を投資されますが、税務関係に対して資金を使うことに消極的な傾向にあるんです。

——税制は複雑ですし、税務・会計の知識を持つ税理士の存在は必ず必要ですから、税理士を志望する方が安定するといいですね。今後についてはいかがですか。

独立・開業して、個人事業主となって看板を掲げた以上は、この事務所を守っていくために経営に力を入れていかなければいけません。ただそれ以上に、私は人生を豊かにすることを大切にしたいんです。それは、人と関わり、良好な関係を築きながら、楽しく過ごすということでもあります。青経塾やアイチ士業ネットワークといった様々な団体に所属したりして、人と出会う機会をつくり、そこでご縁のあった方々と手を携えて仕事をする。困ったことがあれば相談し合いながら、この業界で共に生きていけるような関係を築けることはいいですね。仲間を増やしていきたいです。プライベートな目標としては、3軒目となるマイホームを建てる事。病気になるまでは何でもできると思っていました。病気を経験しましたが、こうして元気です。自分の力で人生を豊かにしていきたいですね。

(2024年12月取材)

column

▼松谷代表は、約5年前、乳がんに罹患する。ステージ3だったが、リンパ節を切除。3週間に1度の抗がん剤治療を受けながら、病休を取ることなく、仕事と闘病を両立して乗り越えた。それから5年が経過。元気に、税理士業務を続けていく。しかし、病気に對して理解が低い組織もあるのが現実だ。代表もまたそれを経験した1人。「悔しい想いも、たくさんしました」と振り返る。組織に属した日々に終止符を打ち、独立する道を選んだ。長年勤めた勤務先の退職を見据え、先行投資で事務所を構える家を建築した後、約4年の勤務を経て退職する。声をかけてくれた税理士法人に入り、2年半ほど勤務した後、2023年に『松谷泰子税理士事務所』を再開業した。1人の税理士として、これまでに蓄積した経験を糧に、代表は歩みはじめたばかりだ。

「30年以上も税務職員として働いてこられた松谷代表。そこで培つてこられたご経験は、何にも代えられない財産ですね。代表だからこそできるアドバイスやサポートもあるでしょう。また、大病を乗り越えられたこともご立派ですね。人生を歩んでいたり、お人柄が窺えました。今後も、お体を大切に、つまみ枝豆・談話などしてください」





松谷泰子税理士事務所
代表

松谷 泰子

税務職員として30年以上の経験を持つ松谷代表。

独立・開業の道を選択した今、その経験に裏打ちされた知識や対応力を駆使し、

1人の税理士として、依頼人の声に耳を傾け、状況を的確に把握。

課題を最適なサポートで解決することで、信頼を得る。

また「人生を豊かにすることを大切にしたい」と話した代表。

人と関わりながら築く良好な関係が、はじまった新たな人生を豊かにしていくはずだ。

(対談記事は 68 ~ 69 頁に掲載)

「1人の税理士としてお役に立ち、
人と関わりながらこの人生を豊かにしたい」